



## 『ヨーロッパ近代生活絵引』編纂共同研究 ボーリュウのジョーリ

鳥越 輝昭  
(非文字資料研究センター研究員)

「ヨーロッパ生活絵引編纂」共同研究グループでは、18世紀のヨーロッパ主要都市の公空間における生活の様子を探求している。公空間とは、広場・河岸・街路などを指している。わたくしが担当する都市は、ロンドン、ナポリ、ローマ、ヴェネツィアであり、研究の素材は、おもに当時描かれた絵画や版画である。

今回の短期の調査旅行では、18世紀にこれらの都市の公空間を描いた絵画・版画の原画の確認と図版の入手とを目的とし、各都市の美術館や版画販売店などを巡った。また、絵画等に描き出された場の現状を写真撮影することも、あわせて目的とした。

訪問した主な美術館等は、ボーリュウ・パレスハウス(英国ハンプシャー州)、ナショナル・ギャラリー(ロンドン)、サマセット・ハウス(同)、カポディモンテ美術館(ナポリ)、サン・マルティーノ美術館(同)、カピトリノ美術館(ローマ)、コロナ宮殿美術館(同)、国立古代美術館(同)、クエリーニ・スタンパリア美術館(ヴェネツィア)である。

18世紀ヨーロッパ都市の公空間を描いた絵画・版画を調べる過程で、奇異な思いをした事柄がある。18世紀ナポリの都市景観を描いた画家にアントニオ・ジョーリ(Antonio Joli, 1700-1777)という、おそらく日本では知る人のほとんどない人がある。イタリアのモデナに生まれ、おもにヴェネツィアとナポリで仕事をし、ナポリで没した。この画家の作品を画集で見ていると、所蔵場所として「ナショナル・モーター・ミュージアム National Motor Museum」と「ボーリュウ Beaulieu」という名前が頻出するのである。

ナショナル・モーター・ミュージアムといえば、「国立自動車博物館」のはずである。なぜそこにナポリ景観画があるのか。しかも、「ボーリュウ」というフランス語の名前を持つ場所が英国にあるらしい。その後、ナショナル・モーター・ミュージアムのホームページを調べて

みたところ、この博物館のある敷地には、隣り合って「ボーリュウ・パレスハウス Beaulieu Palace House」という施設と、「ボーリュウ・アベール Beaulieu Abbey」の跡地があり、ともに一般公開されているということがわかった。

「ボーリュウ・アベール」の「アベール」は大修道院の意味である。わたくしは、英国史の知識から、「パレスハウス」の持ち主は、ヘンリー8世王による修道院解散によって修道院の領地をもらい受けることになった家来だろうと推測した。また、ヨーロッパ史の知識から、アントニオ・ジョーリの絵は「グランド・ツアー Grand Tour」の結果、入手したものだだろうと推測した。「グランド・ツアー」は、貴族の子弟が古典教育の仕上げとしてイタリア等へ3年間ほど旅したもので、とりわけ18世紀の英国貴族階級のあいだで盛んにおこなわれた。さらに、ジョーリの絵が展示されているとすれば、ナショナル・モーター・ミュージアムではなく、ボーリュウ・パレスハウスと呼ばれる館の方だろうと推測した。これら3つの推測に基づき、わたくしはボーリュウへ向かった。推測はすべて当たっていた。

ボーリュウは、英国南部の海岸近くにあり、ロンドンから鉄道で2時間弱、さらにブロッケンハーストという名の駅からタクシーで20分ほどのところにある。タクシーで5分ほど走ると、「ボーリュウ・エステート(ボーリュウの領地)」の立て札が見え、以後、馬の放牧地や森のなかを走り続ける。広大な領地である。

充実したガイドブック *Beaulieu: Beaulieu Abbey, Palace House, National Motor Museum*によれば、現在のボーリュウのあたりは、13世紀初頭、ジョン王によって、フランスを本拠とするシトー修道会に領地として与えられた。そこには長軸100メートルを超える巨大な修道院教会を中心に修道会関連施設が建てられていた。

1538年、ヘンリー8世王による修道院解散政策により、この修道院施設と領地は王に召し上げられた。同年、こ